

国内研修レポート

今回私たちは山形県の小国町に国内研修に行きました。私個人としては、初めての国内研修ということもあり、楽しみという気持ちと不安という気持ちがあったのですが、実際行ってみると、とても楽しく、また興味深い体験を沢山することが出来ました。

まず初めに驚いたことは、雪の多さです。かなりの積雪量があるということは伺っていたのですが、私たちが小国に着いた時は積雪が2 m 3 9 cm と役所の方に伺い、とても驚きました。町に出ても雪が壁のようにそびえ立っていて、本当に雪の世界という感じで普段生活している関東ではなかなか体験できない経験だったので少しワクワクしましたし、驚きました。この雪はゴールデンウィークまで残っているということを伺って、雪に慣れている土地の方だとしても、特にお年寄りの方は怪我の心配もあるなと思いました。町長からのお話の際も、今年は特に雪がすごくて除雪費用がすごく掛かってしまい、臨時で会議が行われる、というのを伺って、雪が町に与える影響についても実感しました。

私が特に印象に残っているのは、小国町立小国小学校を訪問させていただいたことです。まず外観からすごく新しくて、一見小学校かとわからないほどモダンな印象で素敵だなと思いました。豪雪地帯ならではの雪対策として、無落雪型の屋根になっていたり、して雪国の生活に配慮した作りになっているのだなと思いました。また、乾燥室があったり、、、というのも私が暮らしている神奈川県の小学校では見られない設備なので、雪国ならではの設備だなと思いました。そして室内は木を中心としたデザインで天井も高く、すごくナチュラル感やぬくもりを感じられるようなデザインで、どこかのお家のようなアットホームな雰囲気がありました。階段や廊下も広く、子供達のがびのびと学校生活を送っている様子がすごく伝わってきました。一番珍しいなと思ったのが、教室の廊下に面しているドアが全部開いて、廊下と直結して、幅広く交流・学びができるというのが普通の小学校ではなかなか見られる造りではないなと思いました。学校の方は、廊下に面しているドアが開くことによって、他クラスからの雑音で集中できない生徒もいると伺い、なかなか難しい面もあるのだなと思いました。私が小学生だったら絶対に楽しいと思う造りだったのですごく良いなと思いました。また廊下を挟んで教室に付随するワークスペースも面白いなと思いました。また授業を見学させていただいた際は、チョークを使う黒板ではなく電子黒板を使っているのもすごく印象的でした。私の小学生の頃はチョークを使う黒板だったので、なんだか時代の進化を感じて少し寂しい気もしましたが、現代の仕組みに小さい頃から慣れていくのは今の時代、大切な事なのかなと思いました。そして図書館もすごく大きくてどこか本屋さん

に来ているかのような雰囲気があり、素敵でした。また英語の授業を見学させていただいた際は、先生もたくさんいて、座学ではなく広い室内でのびのびと学習しているのが魅力的でした。小学校のうちからこのようにのびのびと思いきり学習できたらもしかして勉強が好きになる子も多いのかもしれないと思いました。

2日目は地域の方々と一緒に昼食作りをさせていただきました。さまざまな料理を教えてください、私はキクラゲとくるみの和え物のお手伝いをしました。名産のアケビを使った料理や、お餅もありました。お餅はネギと和えた納豆と一緒に食べるのが定番なんだそうで普段はやらない食べかただったので不思議でしたがすごく美味しかったです。また食後には甘酒も飲んでみたのですが、普段は甘酒が苦手で全く飲めないのに、小国町でいただいた甘酒はクセがなくすっきりとした味で、たくさん飲みました。昼食の席で、食べ物を残すことはこの辺ではすごく失礼なことで食器をすっきり空っぽにすることが大切だと教わり、お腹いっぱい食べることができました。また昼食作りでは、早稲田大学のサークルの方々と交流する機会もあり、同じ大学にはいない方々とお話しする機会はなかなかないので、学校のことやまちづくりの活動の話など、同世代の人たちの身近なお話を聞けてすごく貴重だし刺激ももらえました。

そのあとは地域町おこし協力隊の方のところにお話を伺いに行き、保育園を地域の方々が集まれる空間にお邪魔しました。私たちがお邪魔する前に、来ていらした、おばあちゃんたちが食べ物を置いていってくださっていたり、普段から地域の方が食べ物をよく御いってくれているということを知って、協力隊の方が太っちゃったとおっしゃっていて、なんだかあったかい感じがしました。地域町おこし協力隊の方はさまざまな経費が支給されるにしても、実質お給料は無い状態で、でもこんな風に地元の方々が食べ物をもたせてくれたり、分けてくれたりしてむしろ貯金ができる人もいと知って、本当に町の皆さんの暖かさや、優しさ、ぬくもりのようなものを実感しました。またそこでは、輪投げ大会なども行われていると聞いてとても楽しそうだし、いろいろな人とお話ししたい・交流したいと思ってる方も多いと伺いました。実際に、私たちが空き時間い卓球をしていたら、「大学生見てみたい！」とすごく元気な地域の方々がいらっちゃって、私たちまで楽しい気持ちになりました。

私自身は神奈川県川崎出身でわりと大きな街で育ってきたので、同じ市や場所で暮している人はおろか、同じマンションに住んでいる人の顔すらわからないし、挨拶などありません。しかし小国町では、道をすれちがう方が挨拶してくれたり、学校帰りの小学生の子達も元気に挨拶してくれて、少しびっくりしたと同時にすごくほっこりした気分になりました。また小国町出身の聖奈さんは、(聖奈さん自身の明るい人柄もあるかと思いますが)

町を歩くたび、お店に入るたびに、すごく仲良く地元の方とお話ししていて、こんなに人と人とのつながりがあるというのがすごく素敵であったかい印象でした。町ならではの暖かい関係がしっかりと組み立てられていたら、例えばもし災害があったり、何か緊急事態が起きた時でも互いに助け合えたり、不安も減るんだなと考えました。また、小国町は食べ物もすごくおいしくて、町ならではの食材を使っていたりと、地域の愛を感じられるような食事をたくさんいただきました。

私自身は臨床心理学科ということもあり、なかなかまちづくりという分野には関心が大きくはなかったのですが、今回このように、生で、また自分の目で町を見てすごくまちづくりに興味を持ちました。自分の地元は、小国町のように、“みんながあったかい町”という雰囲気はないかなと思います。正直、今まではあまり地元で自信を持って好きと言える部分はないと思っていました。しかし、今回の研修を機に、もう少し自分の地元にも関心を持って、もっともっと素敵な部分・好きな部分を見つけていくことができれば良いなと思いました。それにはまず、自分の地元のことをもっと知っていく必要があるなと思いました。

今回、普段では味わえない、貴重で素敵な経験が出来ました。今回得た知識や経験を自分の知識の栄養となるようしっかりと大切に持っておきたいと思います。また持っておくだけでなく、それを発信できるようになれば理想的だと思います。大学生のうちに自分から積極的に外に飛び出して行きたいと思います。